

◇ 生活発表会へ、お出かけください！ ◇

新しい年が始まり早や 2 週間が過ぎようとしています。

2 月 24 日（日）には、大きな園行事「生活発表会」があります。現在、各学年の子ども達は、製作、英語、体育等の日々の活動とともに、「生活発表会」で行う歌や踊り、楽器演奏などの練習に一生懸命頑張っています。

こうした大きな舞台での体験は、子どもの内面の成長を一層促します。そして、お家の方々の観覧がさらに子ども達への意欲を高め、励みへとつながると思います。

当日を楽しみに、是非お出かけ下さることを願っております。



教育雑感 シリーズ 18

～百聞百見は一験にしかず～

昔から、「見ることは聞くことに勝る」という意味で、「百聞は一見にしかず」といった諺があります。しかし、世界の松下電器（現、パナソニック）を育て上げた松下 幸之助さんは、この諺をもう一歩進めて、「百聞百見は一験にしかず」と言っています。

「百回聞くより一回見なさい。そして、百回見るより、一回やってみなさい」ということです。アラブにも、同じような諺があるようです。それは、「百回の手紙より一回の握手、百回の握手よりも一回の食事」ということです。こうしてみますと、直接体験することが如何に大切かが見えてきます。

そこで、もう少し体験について考えてみますと、近年は、これまで知識を重視してきたことへの反動とともれるように、教育の世界はもとより他の様々な分野でも体験の重要性がいられています。ちょっとかじっただけでも体験と言えば体験ですが、こうした体験が本当に身に入った体験といえるかどうかは疑問の余地があります。

昔から、「三日坊主」とか「器用貧乏」といった言葉は、あまり良い意味では

使われず、少しかじっただけでは体験したことにはならないことを示しています。逆に、「石の上にも3年」という諺がありますが、このくらいの年月をかけてこそ体験といえるのでしょう。

そのため、体験の値打ちを測る物差しとして、時間的な量が必要ということは分かりますが、さらに進めて体験の質を高めるには、「挑戦しようとする心構えがどれだけあるか」にかかっているようです。



～人を見る確かな目を持つ～

野球の審判というものは大変です。写真や鮮明な映像、そして、音波や光の解析まで、科学技術の発達は、一人の人間の権威を失墜させることすらあります。

でも、スポーツには、どこか「ゆるみ」があってもいいのではないかと思うときがあります。もちろん、不正は絶対に許されませんが、VTRの鮮明な映像が人間の眼の判定の「間違い探し」の役割だけを担うだけでは淋しい気持ちになります。



相撲でも同じようなことが言えます。物言いがついたとき、確かにVTRで確認することは出来ませんが、そこで大切なことは、相撲の流れを見るということです。勝負で負けた相撲でも、力士の意気込みやその取り組みの勢いを見ていると、相撲には勝っている場合があります。

こうした視点は、子育てにおいても、教育においても必要なのではないのでしょうか。

～心に残った話～

以前、全国の幼稚園の先生方の集まりに参加した時、とても心に残る話をされた園長先生がみえました。その園長先生のおっしゃったフレーズを私なりに聞き取った形で紹介してみます。

「基本的には、人間は“生き物”です。世の中がスピード化しても、人間は機械にはなれません。赤ちゃんは、10か月経たないと歩き始めません。つまり、人間はゆっくりとしたペースで、一人の人間として社会を構成する一員として送り出されるのだと思います。こうした、人間の成長のあり様について、もう一度じっくりと受け止めていくべきではないでしょうか」